

福島第一原子力発電所事故に関する声明

2011年3月11日の大地震とこれに伴う巨大津波により、東京電力福島第一原子力発電所の機能が破綻して、かつてない重大な原子力事故が発生しました。この事故により、人、特に乳幼児への長期的な影響が懸念され、経済的損失が膨大であること、発電により発生する「死の灰」をはじめ放射性廃棄物の処理が科学的、技術的に全く対策がなく、次世代に多大な負担を強いるものであることにも多くの人々が気付きました。

原子力発電は日本の使用電力の3割を担う発電分野であり、大多数の日本国民が何らかの形でその恩恵を受けてきました。しかし、この未曾有の事態を経験して、これまでの原発をめぐるあり方と「国策」が正しかったのか、根本的に問われています。

私たち不戦兵士・市民の会は、66年前に敗戦によって終結した戦争を体験した元兵士たちが中心となって、日本の非軍事化と民主化および世界平和の実現に寄与することを目的として1988年に発足しました。この度の事故とその経緯を知るにつれて、原子力発電を推進した「国策」が、かつて戦争に突き進んで行った時の「国が決めたこと」との姿が重なってしまうのです。

原子力の平和利用を推進するという国家施策は、世界の唯一の被爆国である日本にとって反対意見も多いなかで決定されたものであり、事故はありえないという、日米両政府がつくりあげた「安全神話」は、全く科学的根拠がなかったことが明らかとなりました。根拠も見通しもなく「日本が負けることはあり得ない」という前提で戦争の深みにはまって行った姿と重なるのです。

私たちは復旧・復興は、被災者の立場と利益を尊重して必ず合意の上、実行することを強く要求するとともに、次の事項について提言致します。

- 今回の原子力事故の原因究明結果の全公開と客観的科学的な評価の実施
- 原子力発電からの撤退と自然エネルギー政策の推進
- 東京電力と電気事業連合会の責任の明確化と応分の負担(賠償の完全実施)
- つくられた「原子力安全神話」を告発し原発ゼロの民意の国会への反映

2011年7月

不戦兵士・市民の会

千葉県木更津市八幡台 2-5 C-1

TEL 0438-40-5941 FAX 0438-40-5942